

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7 年 3 月 19 日

札幌市立 藻岩中学校

## 1 今年度の重点目標

『自ら 気づき 考え 実行する生徒』の育成

## 2 今年度の経営方針

知・徳・体の調和と育成、信頼への創造  
～学びと人のつながりを感じ、自己有用感を育成する指導の工夫と充実

1. 学ぶ意欲をもって、主体的に取り組むことができる生徒の育成【学ぶ力】
2. 互いを尊重し、支え合うことができる豊かな感性と社会性の育成【豊かな心】
3. 体力向上や健康的な生活に主体的に取り組む生徒の育成【健やかな体】
4. 校種間の連携をはじめ、教員の資質・能力向上等の推進【信頼される学校】

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自立しともに高めあい未来を創造する人を目標して「自ら気づき、考え、実行する生徒」	本校の「学校教育目標」に向けて意識的に取り組んでいるか。	A	教職員一人一人がどのような教育活動を展開していくかを考え、学校全体や各校務分掌、特別委員会、学年等において共有する。また、学校としての願いや目標を生徒や保護者などにも分かりやすく、繰り返し発信し、具体的に表現していく。学校便りにおける見やすい紙面づくり、発行回数や時期の見直しも引き続き行った。また、学校公開日を年11回まで増やし情報公開にも努めた。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		目指す子ども像の「自ら気づき、考え、実行する生徒」については、各学級に掲示されていることがとても良いと思う。生徒にもこの言葉が浸透していることがうかがえる。また、生徒の実態を見ても、この教育目標が高いレベルで実現できていると感じる。保護者アンケートの項目を「学校は～と思いますか」ばかりではなく「御家庭では～ですか」も入れていくことが必要ではないか。				

包括的 重点	家庭や地域とともにある学校づくりの推進	学校公開日の推進 学校HPの充実 地域との連携・相互交流の促進	学校公開日の開催状況 ホームページの更新等の状況 地域、関係機関との対面交流の場の設定	達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
Iーさ C T 中 を 一 貫 し て 使 っ た 教 学 活 動 の 推 進 ス テ ッ プ の 推 進 （ 情 報 活 動 の 推 進 ）	調和のとれた 豊かな心 の育成	道徳教育	道徳の授業で指導計画に基づき、心を育てる指導を実践できているか。	A	年度初めに1年間を見通した計画を立て、授業時数の確保を確実にしている。また、外部講師による講話やローテーション道徳などを取り入れ、多くの教師の目で生徒一人一人をきめ細かく評価できるよう工夫を行っている。	A	A
		健やかな 体の育成	「健やかな体」育成プログラムの実施	運動やスポーツに触れる機会を提供し、生徒が楽しんで取り組む活動を取り入れ、体力の向上をはかる。	A	1学期と3学期に「学年別スポーツ大会」を実施できた。1学期はレク的な要素も取り入れた内容にリレー競技などで構成し、3学期は雪に慣れる機会を作るため、スノーフラッグなどの競技を行った。	A
子どもの 発達への支援	札幌らしい 特色ある学校 教育	学びの基盤となる【読書】	毎朝10分間の「朝読書」を年間を通じて効果的に実施できているか。	A	朝読書は完全に定着しており、朝の始まりを穏やかに迎えている。読書用の本を忘れる生徒もいるが、学級文庫等を図書局で各教室に設置し対応できている。学校評価(生徒回答)においても75%以上が意欲的・肯定的な回答をしている。	A	A
		不登校支援	生徒や家庭からの相談に応じ、積極的にかかわりを深める相談をしているか。	A	様々な事情から教室登校が難しい生徒に対し、早期に声掛けを行い、スクールカウンセラーや相談支援パートナーとの連携をもとに、別室登校やちえりあ、まこまる等の外部機関も利用し、生徒・保護者の支援を行った。また、オンライン授業を希望する生徒に対し、家庭や別室で、授業を受けられる環境整備は整っている。	A	A
信頼される 学校の創造	家庭や地域とともに 進める学校づくり	いじめ防止対策	学校は校内生活をいじめや暴力のない落ち着いたものにする工夫をしているか。	A	年度当初はもとより、折に触れ、いじめや暴力は許されないことを指導してきた。健康観察アプリや教育相談、いじめアンケート等を活用するとともに、今年度から1回/いじめ防止対策委員会を開催し、その予防や早期対応・早期解決に組織的に努めてきた。	A	A
		信頼される学校の創造	学校は保護者や地域へ情報提供を適切に行っているか。また、行事や授業を参観する機会を十分に設けているか。	A	今年度の学校公開日は、昨年度の年8回から年11回とさらに回数を増やすことができた。また、ホームページも各行事、学校だよりの発行等に合わせ、定期的に更新できている。中学校健全育成推進会も開催することができ、地域との対面交流も進んでいる。	A	A
教科等の枠組みを 越えた教育	進路探究学習（キャリア教育）	総合的な学習の時間において、目標に沿った内容の工夫をしているか。	A	今年度から2年生の「職業体験」も復活し、1年生の外部講師を招いての「職業講話」「職業調べ」、3年生の「上級学校訪問」等、コロナ前とほぼ同様の進路探究学習(キャリア教育)を実施することができた。	A	A	
		学校関係者評価委員会による意見	「主体的」ということばがキーワードだと考える。高度経済成長時代の昔の子どもは家ではあまり勉強しなかったようにも思うが、今の時代はそうもいかないかもしれない。ドリルコンテンツを利用する取組は、子どもにとっては動機付けとしても、その効果を考えても有効だと感じた。また、職場体験や講師を招いての講演会等、直接体験を多く設けていることはとても良いと思う。大きな課題は不登校支援だと思ふ。一人一人の顔を見て声をかけるなど、子どもたちを「見る」ことを基本としながら、チャットログやいじめアンケート等も活用し取りこぼさないよう組織として適切に対応して欲しい。ただし、不登校の子どもたちを学校だけで対応していくのはもはや限界だと思ふ。そういう子どもたちも多様性の一つとして捉え、社会で対応していく仕組みが必要な時代になったと思ふ。				

学校独自に 設定する分野	小中一貫した教育の推進	A	6月には4校が一堂に会し、授業参観やテーマ別研修等、充実した研究会を実施することができた。また、研究会に先立って「ICT活用連絡会」を開催し、研究会と合わせて「ICT活用推進に向けた共通した取組の必要性を再認識した。また、特に「自治的な活動の推進」にかかわっては、9月の「さっぽろっ子サミット」に合わせて小中の児童生徒による対面やリモートによる話し合いを複数回実施するなど、活発な取組を行うことができた。	A	A
	業務改善・働き方改革	A	勤務時間の縮減を計りつつ、より効率的な教育課程の見直しを行っている。また、「すくくる」による朝の欠席連絡や各種配付物のPDF配信等も定着してきており、印刷や配付に係る業務時間の短縮を実現している。さらに、「シャボテンログ」による健康観察やいじめアンケートも導入され、情報の確実な収集とその時間短縮に役立っている。また、自動採点システムも導入され、テストの採点業務の時間短縮に寄与している。	A	A

学校関係者評価委員会による意見

学級通信は先生方にとって大きな負担になると思うので、ホームページや学校だよりを充実させ学校からの情報を一元化することはとてもいいと思う。先生方が、多くの事務を抱えず精神的に追い詰められることがないようにしてほしい。先生方が元気ならば、子どもたちも元気になる。削れることは削って、様々な仕組みやツールを活用しながら、ストレスをためないようにしてほしい。